

鈴木会頭 新年のご挨拶

謹んで新春のお祝いを申し上げます。

昨年半ばからその対応に追われました箱根・大涌谷の火山の事象は、私たちの暮らしと商いはこれまでもこれから自然の恵みと脅威の中にあるという事実を改めて教えてくれました。併せて、これまでの観光の問題点にも気づかされた出来事でもありました。

一方、2019年のラグビーワールドカップ、2020年の東京オリンピック・パラリンピックは小田原箱根に世界の耳目が集まる絶好の機会でもあります。

この地域の経済の大きな部分を観光が占めている事実を鑑みると、箱根だけでなく小田原も含めたこの地域全体の観光のあり方自体を見直しなくてはならないと感じます。今回の気づきを活かして、議論をさらに深め、小田原箱根の観光ビジョンをまとめ、提言してまいります。

さて、景気の回復を示す国の経済統計とはうらはらに、地域の中小企業の経営の現場ではなかなかそれを実感できないことも事実であります。経営を巡る状況を冷静に捉え、迅速に行動することが求められていると感じます。

地域経済の基礎を支える会員企業の皆さまのそれぞれの商売繁盛とその活躍の舞台となるべきまちづくりの2点を今年も活動の最重要課題に据えてまいります。

国内では人口が減り、なかでも働く人口が減り、高齢者が増えという未曾有の社会構造の変化の中で、世界では地球温暖化をはじめとするさまざまな環境の制約下で、本当に持続可能な経済とは？が問われています。その答えは日々の経営の現場にいる者が考えていくべきことなのだと思います。

設立70周年という節目の年のスタートにあたり、部会、特別委員会、タスクフォースを中心に、活発に議論し、積極的に行動し、その結果をしっかりと問う、そんな商工会議所を目指そうと決意を新たにしております。

この一年が皆様にとって実り多き年になりますこと、そして、この小田原・箱根の地の安寧を祈念申し上げ、年頭のご挨拶とさせていただきます。

会頭 鈴木悌介